

## 米山部会長からの提出資料

### 猪名川モデルの骨子（案）

#### [基本的な考え方]

水の惑星である地球の生物にとって水はその生命の源である。

大気の循環のなかで水は循環する。大地から蒸発した水蒸気が、空で雲となり雨となり地表に降り、溪流となり川となり更に大河となり海にとそそぐ。海から蒸発した水蒸気がふたたび雲となる。猪名川もこの水の循環の一部をになっている。

あらゆる生物は水によって生きている。ヒトも身体自身の3分の2が水である。猪名川流域を自然環境として生息する動物、植物も、ともに生きている。

#### [環境のとらえ方]

自然環境は、人々の生活環境でもある。古代から、猪名川流域には人々の足跡が認められる。弥生時代の田能遺跡（尼崎市）などがあり、歴史時代には行基ゆかりの昆陽池や昆陽寺（伊丹市）があり、また多田源氏の発祥の地とされる多田神社がある（川西市）。近世初頭には戦国時代の伊丹城荒木村重の悲劇もあり、尼崎城の建設もあった。近世には川西・伊丹の酒造業が発展して、のちの灘五郷の基盤を作っている。京都大坂に隣接する地域としてこの流域にも独自の発展がみられた。猪名川の自然環境は人間の社会環境・文化環境として推移してきた。

#### [戦後の発展]

戦前には阪急・阪神などの私鉄の発達とそれにとまなう住宅地の開発、遊園地の開発（宝塚市）があり、また伊丹空港の開発もあった。工業地帯としての急速な発展も下流地域にはみられた。（尼崎市・伊丹市）しかし、特筆すべきは第二次大戦後、1960年代の高度経済成長期以降の住宅団地開発、ゴルフ場開発である。その結果、猪名川の上流域に巨大な人口集積が見られることになった。たとえば豊能町では次のような増加がある。

1932年	東能勢村と呼ばれていた。	473世帯、2510人
1960年	周囲を合併して	762世帯、3758人
1977年	町制施行後は人口が増加して、	
1980年		3170世帯、12471人
1985年		4170世帯、16297人
1998（平成10）年		8337世帯、27318人

#### [猪名川流域とは]

2府1県11市町を含み、阪神工業地帯の中心尼崎市をはじめ、大阪の衛生都市伊丹、豊中、川西、池田、箕面市などの都市郡を擁している。

大阪国際空港、名神高速道路、山陽新幹線、JR東海道線、中国縦貫道、国道二号線、阪神高速道路、同湾岸線、阪急電鉄、阪神電車などの列島の東西を結ぶ交通網がある。

工場群は6000余、関連人口170万人、資産額6兆7千億円。市街地から水源にい

たる全域の開発が進行して典型的な都市河川とされる。

猪名川の流域面積は383km<sup>2</sup>（山地286.7km<sup>2</sup>、平地96.3km<sup>2</sup>）

#### [国の直轄事業]

1938（昭和13）年7月の「阪神大水害」後に1940年から国の治水対策の直轄改修がはじまった。最明寺川の改修、藻川改修につづき、さらにEXPO'70の関連の事業もあって、箕面川ダム completion、一庫ダムの completion を見たうえ、現在は総合開発事業として余野川ダムの建設が進んでいる。

猪名川支流の一庫川に建設された一庫ダムは知命湖と呼ばれるが、これは洪水調節の機能に加えて、水道用水の供給と猪名川の流水調節も目指したダムであり、16年の歳月と638億円をかけて1984年3月に完成したが、現在ではその上流地域に大規模団地（猪名川町、豊能町、能勢町）が建設されている。同様に箕面川ダム（198X年完成）があり、さらに豊能町を集水域とする余野川ダムの建設計画が進行中である。

#### [中長期的展望施策の理念]

治水の視点から：安全第一 - 地域住民の生活（資産・事業・家庭）を防衛するために治水は最優先であるべきである。台風・高潮などの被害を最小にするための施策。

利水の視点から：上水道の需要、工業用水、農業用水の確保を必要十分な予測のもとに策定し、その対策をあらかじめ準備すべきである。

環境の視点から：生活環境の向上を目指し、快適な”自然”を流域に回復することを具体的な目標とすべきであり、同時に防災の視点からの警戒システムの充実をはかる。

#### [具体的な施策として]

余野川ダムの建設は計画とおり推進する。

銀橋 - 鼓滝周辺の狭窄部の洪水対策をいそぐ。

加茂井堰改修工事を推進する。

最明寺川、内川、駄六川、千里川の流末（猪名川本流との合流点）の環境整備。

軍行橋上流の東久代公園の整備。

藻川の川辺の環境整備。

猪名川・藻川合流点の環境整備。

東海道本線JR橋の神崎川の橋梁の高さの解決。

尼崎港隣接地域（神崎川、中島川の河口部）の環境整備。

流域の野生動植物（川辺の植物、水中の草木虫魚など）のニッチェ（ビオトープ）の保全 - そのための流量調節。

#### [長期的展望のもとに]

人口学の予測によれば、わが国の人口は2005年に1億2768万人でピークに達して、以後急減して2100年には6737万人になるという。したがって現在進行中の人口増大に対応する大住宅団地の造成もやがて終息すると思われ、むしろ生活の質の向上がめざされることになるだろう。高度経済成長にはげみ、バブルに狂奔した時代は去り、今

後はよりおちついた社会にソフトランディングさせることを目指すべきであろう。

9月21日の第5回親委員会で、寺田淀川部会長から部会委員にあてて課題・意見募集の提案があったと報告され、その淀川部会委員宛に出された文書が配布されました。

猪名川部会でも、同様に委員の皆様の意見をまとめて集約したいと思います。よろしくお願いいたします。